

2022年5月15日 午前礼拝
「テサロニケで福音を語る」 説教:大木英雄牧師

【引用聖句】使徒 17:2~6

- 2 パウロはいつもしているように、会堂に入って行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。
- 3 そして、キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならないことを説明して、「私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリストなのです」と言った。
- 4 彼らのうちの幾人かはよくわかって、パウロとシラスに従った。またほかに、神を敬うギリシヤ人が大ぜいおり、貴婦人たちも少なくなかった。
- 5 ところが、ねたみにかられたユダヤ人は、町のならず者をかり集め、暴動を起こして町を騒がせ、またヤソンの家を襲い、ふたりを人々の前に引き出そうとして搜した。
- 6 しかし、見つからないので、ヤソンと兄弟たちの幾人かを、町の役人たちのところへひっぱって行き、大声でこう言った。「世界中を騒がせて来た者たちが、ここにも入り込んでいます。

【説教要約】

パウロとシラスはピリピを去って 50 キロ南西にあるアンピポリスに行った。さらに 50 キロ南西にあるアポロニヤに向かった。そこからさらに 60 キロ西にあるテサロニケに向かった。この町は通商路に位置する貿易都市で商業の中心都市として栄えていた。パウロとシラスはユダヤ人の会堂を見つけ、そこでパウロは 3 つの安息日で旧約聖書から福音を語った。

イザヤ書 53:6, 私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かつてな道に向かつて行った。しかし、主（父なる神）は、私たちのすべての咎（罪）を彼（キリスト）に負わせた。

父なる神様は私たちの罪を十字架でキリストに負わせると預言されています。そして

詩篇 71:20, あなたは私を多くの苦しみと悩みとに、会わせなさいましたが、私を再び生き返らせ、地の深みから、再び私を引き上げてくださいます。

父なる神様はキリストを死人の中から蘇らせることを預言されています。パウロのメッセージには説得力があったのです。それは、サウロが蘇られたイエス様に直接お会いしているからです。ナザレのイエスこそキリストなのだと宣言したのです。パウロは

ローマ 1:4, 聖い御霊によれば、死者の中からの復活により、大能によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。

父なる神様はイエス様を死人の中から蘇らせる事によって神の御子であることを証明されたのです。パウロはナザレのイエスこそキリストであると宣言したのです。

使徒 17:4, 彼らのうちの幾人かはよくわかって、パウロとシラスに従った。またほかに、神を敬うギリシヤ人が大ぜいおり、貴婦人たちも少なくなかった。

使徒 17:5, ところが、ねたみにかられたユダヤ人は、町のならず者をかり集め、暴動を起こして町を騒がせ、またヤソンの家を襲い、ふたりを人々の前に引き出そうとして搜した。

イエス様を信じただけで天国に入れていただける。こんな感謝なことはありません。どうしてイエス様を信じないユダヤ人たちはねたみに燃えたのでしょうか。それは神様がアダムを造られたときは神の国だけだったのです。

しかしアダムが悪魔の誘惑に負けた時から悪魔の国が始まったのです。神様は悪魔の国から神様の国に引き戻すためにイエス・キリストを地上に遣わし、イエス・キリストを十字架ですべての人の罪の身代わりとされたのです。ですから

ヨハネ 1:12, しかし、この方（キリスト）を受け入れた人々、すなわち、その名（キリスト）を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。

キリストを信じただけで神の国に入れていただけるのです。こんな感謝なことはありません。しかし悪魔にとってはキリストを信じただけで、悪魔の国から神の国に引き抜かれるのです。悪魔にとってこんな許しがたいことはありません。悪魔にとってはねたみどころか、怒りなのです。ですから、町のならず者を駆り集め、暴動を起こしたのです。そしてヤソンの家を襲い、パウロとシラスを引き出そうとしたのです。

使徒 17:6, しかし、見つからないので、ヤソンと兄弟たちの幾人かを、町の役人たちのところへひっぱり行って、大声でこう言った。「世界中を騒がせて来た者たちが、ここにもはいり込んでいます。

そして悪魔の手下たちは、パウロとシラスのことを「世界中をかき乱してきたもの」と言っています。これはパウロとシラスにとって最高の誉め言葉です。葛西教会のクリスチャンが東京都をかき乱していると言われたら、これは福音の力がいかにすごいかということです。これほど悪魔にとって福音の力は脅威なのです。

ですから福音を語ることを徹底的に妨害しようとするのです。私たちクリスチャンは福音を語ることはむづかしいと言いますが、そうではなく悪魔にとって福音は脅威なのです。相手が信じても信じなくても福音を語りましょう。パウロは牢屋の中でアグリッパ王に福音を語っています。

使徒 26:2, 「アグリッパ王。私がユダヤ人に訴えられているすべてのことについて、きょう、あなたの前で弁明できることを、幸いに存じます。

使徒 26:23, すなわち、キリストは苦しみを受けること、また、死者の中からの復活によって、この民と異邦人とに最初に光を宣べ伝える、ということです。」

使徒 26:24, パウロがこのように弁明していると、フェストが大声で、「気が狂っているぞ。パウロ。博学があなたの気を狂わせている。」と言った。

パウロは福音を語ることによって気がくるっているとされています。しかしパウロは、悪魔は福音に対して攻撃してくるのを覚悟しているのです。パウロは気がくるっていると言われようが平気です。それは福音を信じる事だけが天国へ行ける道だと信じているからです。パウロは気がくるっているという人に向かって福音を語っているのです。

私は和歌山の姉に福音を語っていますが、しつこいと言って姉から嫌われたくないのです。甲府教会の藤田先生と千葉教会の石川やすよし先生はとても仲の良い友達でした。藤田先生が、石川やすよし先生に福音を語ると、石川やすよし先生は、「その話は何回も聞いたので、もうその話はやめてくれ。今度その話をしたらお前とは絶交だ。」と言って別れたのです。

半年ほどしてまた藤田先生が石川やすよし先生を訪問して、しばらく楽しい話をしてからまた藤田先生が、福音を語りだしたのです。石川やすよし先生はかんかん**に怒り**、「お前とは絶交だ」と言って別れたのです。

しかし、しばらくして石川やすよし先生は、「俺があれほどいやだと言っているのに福音を語る、福音ってそんなにすごいのか、一度聞いてみよう」と言って石川やすよし先生は教会に通い始めてイエス様を信じて救われたのです。

使徒 26:28, **するとアグリッパはパウロに、「あなたは、わずかなことばで、私をキリスト者にしようとしている。」**と言った。

使徒 26:29, **パウロはこう答えた。「ことばが少なからうと、多からうと、私が神に願うことは、あなたばかりでなく、きょう私の話を聞いている人がみな、この鎖は別として、私のようになったださることで。」**

アグリッパ王はパウロの語る福音を信じませんでした。しかしこの物語が聖書に書かれているということは、**福音は相手が信じるか信じないかが大切ではなく語ることが大切だ**ということを教えているのです。福音を信じるようにしてくださるのは神様の働きです。人間の働きは福音を語ることです。私は姉に福音を語れば良いのです。

私も 85 歳になり足腰が弱ってきています。毎日歩いたりして足腰を鍛えています。衰える一方です。私たちの兄弟で姉ちゃんが一番元気です。それは百姓で体を鍛えたからです。姉ちゃんのご先祖さんを守っていますが何か、ご利益はありますか、親鸞や法然は立派でしたが死にました。

しかしイエス・キリストだけが死人の中から三日目に蘇りました。私は、キリストは人間的には好きですが、キリストが死人の中から三日目に蘇ったということは信じられません。死ぬということは心臓がとまり肺が動かなくなるので肺から酸素を細胞に送らなくなるので細胞が死んで朽ちてくるのです。一度朽ちた細胞を又生き返ら設なんてことは人間には出来ません。だから信じる事が出来ませんでした。

私は物理学者だから、死んだ人が生き返ったところを見ないと信じられないのです。しかし神学校で証拠論という学問を学びました。歴史的に一度しか起こっていないことをもう一

度再現することはできないのです。例えば関ヶ原の戦いは、私たちは誰も目撃していませんが信じています。それは信頼のおける文献によります。世界で一番信頼のおける文献は聖書です。

イエス・キリストは十字架で殺され三日目に蘇ると預言しました。12弟子はイエス様と3年半も寝食を共にしていましたが、イエス様の預言を信じていなかったのです。それほどイエス様が死人の中から三日目に蘇ることは信じにくいことです。

ルカ 24:37, 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。

イエス様が死人の中から三日目に蘇って弟子たちにお会いしたとき、弟子たちはイエス様の幽霊だと言ったのです。死んで三日もたったイエス様がよみがえられたのを見たら幽霊だと思えますよね。

ルカ 24:38, すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。

ルカ 24:39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。

わたしに触って、よく見なさい。幽霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。

ルカ 24:40, [本節欠如] 脚注 = イエスはこう言われて、その手と足を彼らにお示しになった。

イエス様は弟子たちに「幽霊なら手や足はないだろう。私の手や足に触って見なさい。」と手や足に触らせました。

ルカ 24:41, それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。

ルカ 24:42, それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、

ルカ 24:43, イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

それでも弟子たちは信じられずにいたので、「ここに何か食べる物がありますか」と尋ねられました。弟子たちが焼き魚を差し上げるとみんなの目に見える前で焼き魚を召しあげられました。焼き魚を食べる幽霊はいないので弟子たちはやっとイエス様が死人の中から三日目に蘇られたことを信じました。聖書の中に私よりも、姉ちゃんよりもイエス様が死人の中から蘇ったことを信じられない人がいました。

使徒 9:1, さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、大祭司のところに行き、

使徒 9:2, ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエルサレムに引いて来るためであった。

使徒 9:3, ところが、道を進んで行って、ダマスコの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。

使徒 9:4, 彼は地に倒れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」という声を聞

いた。

使徒 9:5, 彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである

その人の名はサウロと言いました、サウロはパリサイ派の人で律法を真面目に守っている人です。律法というのは交通ルールのようなもので、一時停止を怠った人は 7000 円、駐車違反は 1 万 5000 円のような憲法のようなものです。サウロは律法を真面目に守って天国へ入れていただこうとした人です。

ところがクリスチャンという人たちはイエス様が死人の中から三日目に蘇ったと信じるだけで天国へ入れていただけると信じている人たちです。そしてイエス様が死人の中から三日目に蘇ったと信じるだけで天国へ入れていただけると信じる人たちの数が、爆発的に増えてきたのでこのままいけば、真面目に律法を守る人はいなくなると思ったのです。

そしてサウロはクリスチャンを皆殺しにすることを考えた人です。大祭司（パリサイ派の人）にクリスチャンを皆殺しにするお墨付きをもらってきたのです。サウロは実際にクリスチャンを捕まえて殺していた人です。私や姉ちゃんがイエス様が死人の中から三日目に蘇ったことを信じられないと言っているのと訳が違います。

誰かこのサウロにイエス様が死人の中から三日目に蘇ったことを宣べ伝える人がいますか。そんなことをすれば殺されます。誰がサウロにイエス様が死人の中から三日目によみがえった事を宣べ伝えたいと思いますか。死人の中から三日目に蘇えられたイエス様です。

イエス様はサウロに「サウロ、サウロなぜわたしを迫害するのか」と声をかけられただけです。するとサウロは「あなたはどなたですか」と尋ねたのです。するとイエス様は、「あなたが迫害しているイエスである」と答えられました。

サウロはイエス様が死人の中から三日目に蘇ったと信じているクリスチャンを殺していたのです。サウロにとってイエス様が十字架で殺されたことは信じていました。しかし「一度死んだ人がよみがえるなんてことは絶対にありえないことだ。そんなことを信じているクリスチャンは皆殺しにすべきだ」と考えて実際に殺していた人です。

ところがよみがえられたイエス様が直接サウロに会われたのです。サウロの驚きは天と地がひっくり返るような驚きです。今までイエス様が死人の中から三日目に蘇ったと信じているクリスチャンを殺していたサウロがよみがえられたイエス様に直接お会いしたのです。サウロはその瞬間から、イエス様が死人の中から三日目に蘇られたことを宣べ伝え始めたのです。

ローマ 10:9, **なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。**

天地創造の神様がイエス様を死人の中から三日目に蘇らせたと信じるなら天国へ入れていただけません。姉ちゃんもイエス様が死人の中から三日目に蘇ったことを信じて私と一緒に天国へ行きましょう。